

随 想

遊学 in サンフランシスコ

張 宇

おひさしぶりです。名古屋大学医学部放射線科に6年間留学していた張宇です。放射線科の皆様のおかげで、MRI や CT などいろんな知識を覚えたうえ、博士号をとりました。半年前より、MRI を用いてアルツハイマーなど神経変性疾患の早期発見と診断を目指して、アメリカのサンフランシスコ (University California in San Francisco) に留学してきました。ここで、いままでの生活や感想を報告させていただきます。

サンフランシスコの印象

サンフランシスコに到着の日はちょうど朝だった。飛行機から、あの赤色に染められた有名な golden gate bridge が目に映った。やっぱり美しい橋だ。これを1930年代に作ったアメリカはやはり科学技術が進んでいたことを実感した。

空港からは、高速道路や鉄道網によって各地と結ばれ、ダウンタウンまで30分もかからなく、とても便利だった。サンフランシスコはこじんまりした町で、ダウンタウンは徒歩で回ることもできる。主な交通機関は、観光の目玉の一つでもあるケーブルカー、バスは町のすみずみを結んで走ってる。地区ごとにさまざまな民族が暮らし (チャイナタウン、日本人町、リトルイタリー、などのように名前がついている。) 街にはそれぞれの味わいがある。また坂の多い町でもある。

しかし私は最初に驚いたのは、街頭に立ちつくすホームレスの多さだった。到着後の一週目はダウンタウンの中心部に泊まっていった。夜に町を歩くと、観光客やこじき、ストの労働者、警察などが混雑して、ごくにぎやかだ。ちょっと知らない人に声をかけられてすごく緊張した。このような環境でどうやって住むのかなあーと思って不安がいっぱいだった。幸い友人の助けでその後に海岸の辺に引越しすることになった。

今住んでいるアパートは太平洋に面した町のほぼ先端にあり、ビーチまで歩いて10分ほど、窓からも太平洋が見える。家賃はやや高いけれど、周りに住

む人はアジア人と白人が多く、ダウンタウンよりずっと安全で、静かなところだ。ようやく落ち着くことになった。

サンフランシスコはさすがにアメリカの中でも、最も良い気候に恵まれている。去年の11月から今年の6月に渡って、気温はずっと10から20度ぐらいの間で変化していた。3月が過ぎると雨季が終わって、霧と快晴の天気ばかりだった。今はもう6月中だが、自分の家では、毎晩まだ暖房がついている。真夏の日本からはぜんぜん想像ができなかった。

研究活動

私の所属はカリフォルニア大学だが、勤めている病院は老人の多い退役軍人病院である。教授はアルツハイマーの領域でかなりの有名人であり、この2～3年のうち、自ら50人ぐらいのMRI研究グループを作ってきた。研究者達はアメリカや世界各国から集まってきて、MRI画像収集、後処理から臨床研究まで、それぞれの領域の達人だった。主な研究者は技術開発と基礎研究などをやり、私は臨床応用の方に専念している。

日本の研究室よりセミナーが多く、自分の研究室からの進行報告のほかに、他の大学の教授もここで講座を開くことが多い。うちの教授はセミナーを聞く人達に対して非常に厳しい。目を大きく開かなければならない。ちょっとだけ視線を離れてしまうと教授の質問も殺到。居眠りなんか思いもしなかった。

そして英語は話せなければならぬ。研究領域がかなり幅広いので、人の意見を聞き取ったり、自分の主張を人に説得したりすることが基本的な仕事だ。仕事同士はほとんど外国人で、発音もそれぞれにクセがあるが、誰にも発音の違いを気にしない。言葉は通じればいいものだ。私も最初のところで英語が下手で誤解ばかりだったが、間違えても良いからと思ってガンガン英語をしゃべっていくと、ちょっとずつ通じるようになってきた。

充実した生活

日本と比べ、アメリカでは、より競争が激しく、勉強が難しいけれど、毎日がんばって、少しずつ良い結果が見えてくるのがうれしい。きっと将来に役に立つことができると思いつつ、このままの生活を楽しんでいます。

(カリフォルニア大学サンフランシスコ校放射線科研究員)